

ハートに届け 国際支援

AMD A会員と交流 東原中生(安佐南)



石沢睦夫さん

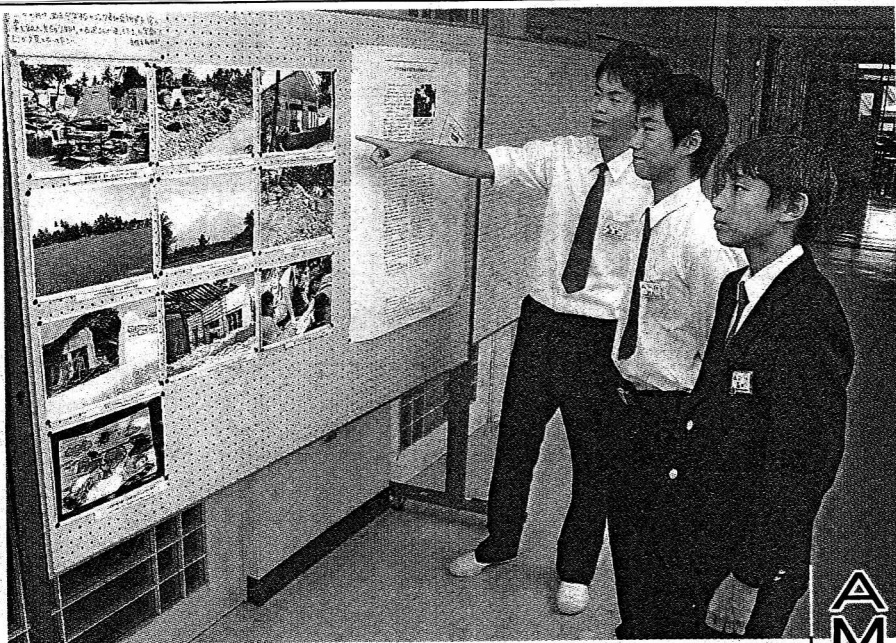
に思う」という文章が、石沢さんの胸に届き、現地の実情を伝える写真と手紙が学校に送られてきた。

これを機に、交流が始まり、校舎の廊下には今も、崩れた家屋や小学校

「若者の取り組みは心強い。国際感覚の優れた大人に育ってほしい」と

などの写真十枚が掲示されている。電話などでやりとりを重ね、九月末には石沢さんを招いた講演会も開いた。

石沢さん。写真に説明大勢の人の生徒会長の(15)は写



石沢さんの写真を見ながら、文化祭の計画を練る左から吉沢さん、村上さん、高田さん

ている。ボランティアを励ます石沢さんからの手紙や写真をきっかけに、講演会まで実現させた。21日の文化祭では、被災地の実情を伝える特別展示を開く。

(江川裕介)

21日文化祭

5月に発生したインドネシアのジャワ島中部地震の救援活動を通じて、広島市安佐南区の東原中の生徒が、岡山市の国際医療ボランティア団体「AMD A」の石沢睦夫さん(69)＝安佐北区落合＝との交流を温め

写真でジャワ震災紹介

元陸上自衛隊員の石沢さんは、災害救援の経験を生かし、過去五回、パキスタンなどを訪問。ジャワ島中部地震でも五月末から十五日間、現地スタッフの生活や医療活動の世話をする調整員として、支援にあたった。

同じ時期、同校の生徒会も「ジャワ島に救援物資を送ろう」と学校ぐるみで支援を計画。二年高田家康さん(13)が中心となり、集まったタオルやTシャツなど段ボール箱四箱分を現地に送った。

両者をつないだのは七月、中国新聞に掲載された三年村上浩興さん(14)の作文だった。「学校をあげての救援活動を誇り